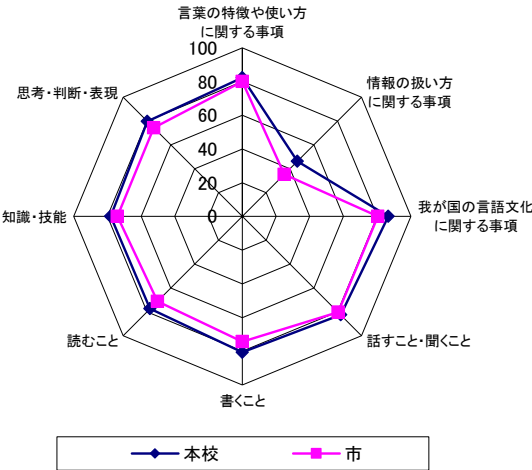


宇都宮市立星が丘中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	82.3	80.0	76.5
	情報の扱い方に関する事項	46.2	35.2	29.3
	我が国の言語文化に関する事項	86.6	80.4	63.1
	話すこと・聞くこと	82.6	80.4	77.7
	書くこと	80.6	74.3	62.9
	読むこと	77.4	71.2	65.8
観点別	知識・技能	78.1	74.1	68.4
	思考・判断・表現	79.7	74.3	67.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

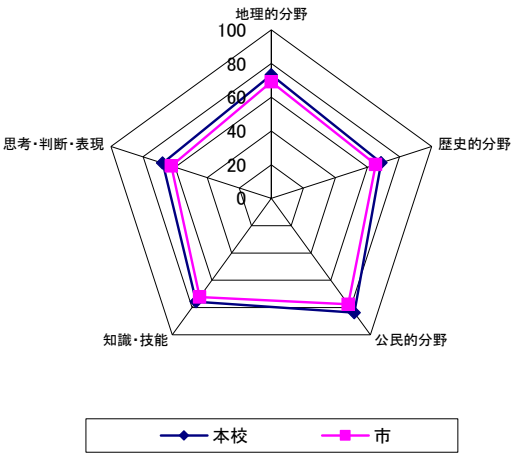
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	○領域の正答率は、市の平均を2.3ポイント上回っている。 ●漢字の書き取りの問題で、一部、正答率が市の平均を下回っているものも見られ、漢字の書き取りが十分に定着しているとは言えない。 ●文法の知識を問う問題の正答率が6割弱と、文法事項への理解が不十分である。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・授業の始めや終わりに漢字の練習、ミニテストなどを実施し、漢字を書く機会を増やす。 ・文法事項の復習をする。特に、各学年で学習する文法事項は、こまめに確認テスト等を実施し、十分に定着させる。 ・用言の活用について、活用の種類や活用形を混同しないように、3年生の文法事項の学習の際に、復習として確認を行う。
情報の扱い方に関する事項	○領域の正答率は、市の平均を11.0ポイント上回っている。 ●正答率は市の平均を上回ってはいるが、この領域に関する問題は正答率が5割を下回っている。読む領域や書く領域と合わせての出題であるが、文章中に示されている情報と情報との関係を理解し、整理する力が身につけていないと思われる。	・文章に示された情報と情報の関係を把握させるために、接続表現の持つ意味や文章中における役割を確認しながら文章を読むよう指導する。 ・文章中の情報の要点をとらえ、簡潔にまとめる力を身に付けさせるために、教科書で扱う文章や新聞記事の論説等を、短い字数で要約する活動を実施する。
我が国の言語文化に関する事項	○領域の正答率は、市の平均を6.2ポイント上回っている。 ○2問中1問は、歴史的仮名遣いへの理解を問う問題で、もう1問は現代における古語の意味を文脈と照らし合わせて問う問題であるが、どちらも正答率が高く、仮名遣いや意味についての理解は十分にできている。	・歴史的仮名遣いや古語の意味についての指導は、引き続き、教科書で古典分野を扱う際に丁寧に確認する。 ・漢字や文法の確認テストと同様、各学年の授業の際に、歴史的仮名遣いや古語の意味についての確認テストを定期的に行い、古語への知識理解を深めさせる。
話すこと・聞くこと	○領域の正答率は、市の平均を2.2ポイント上回っている。 ○選択肢から問われる問題では、3問中2問が90ポイントを超え、残り1問も86.4ポイントと市の平均を上回っている。 ●領域の最後の問題は、正答率が市の平均を下回り、無回答も市の平均より多かった。聞き取った内容を短くまとめ、空欄補充の形で書くのは苦手としていることがうかがえる。	・聞きとった内容と提示された情報を比較し、同じ内容を選ぶことは十分にできているが、聞き取った内容を簡潔にまとめたり、要点をおさえることについてはまだ不十分であると考えられることから、聞き取りテストを行うだけでなく、普段の授業で板書しない発言などをメモさせたり、発言の要約や意図を問い、口頭ではなく記述させる活動を適宜行う。
書くこと	○領域の正答率は、市の平均を6.3ポイント上回っている。 ○書くことの領域の設問については、全ての問題で無回答の割合が市の平均を下回った。 ●ただ書くだけでなく、情報の扱い方に関する事項も合わせた問題に対しては、市の平均より高いものの無回答の多さが目立つ。	・記述をさせる際、読み取った情報と情報との関係を整理・理解した上で記述をさせるため、記述の前に、読み取った情報を整理できような発問やワークシートの工夫を行う。 ・読み取った内容をまとめ、記述させる際には、必ずその根拠となる内容がどこに書かれているのか、なぜそう考えられるのかも合わせて書くよう指導する。
読むこと	○領域の正答率は、市の平均を6.2ポイント上回っている。 ●説明的文章において、情報の扱い方に関する事項に関連した問題の正答率が、市の平均同様著しく低かった。それ以外の問題では、説明的文章、文学的文章にあまり大きな差は見られない。	・文章から読み取った情報を、抜き出し→要約→整理と段階的に行い、確認する際に視覚的に読み取ったことが分かるようなワークシートの工夫をする。 ・文学的文章は、国語科の授業だけでなく、朝の読書の時間などで積極的に読ませて、文章に親しませる。 ・説明的文章については、新聞の記事を読ませることで、論理的に説明していく文章の形式に親しませる。

宇都宮市立星が丘中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	73.3	69.2	61.5
	歴史的分野	68.5	65.1	59.1
	公民的分野	83.8	77.6	71.6
観点別	知識・技能	75.8	72.2	66.8
	思考・判断・表現	67.7	62.3	53.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
(社会では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

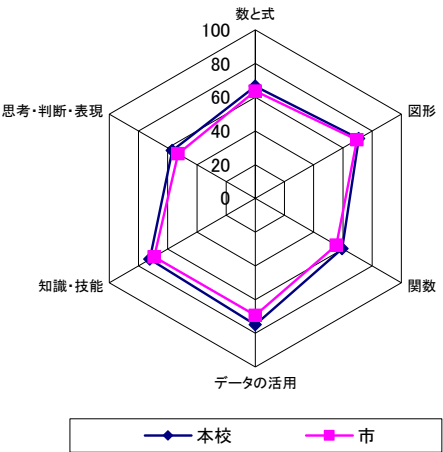
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	○領域の正答率は、市の平均を4.1ポイント上回っている。 ○思考・判断・表現を問う問題で、市の平均を平均6.0ポイント上回っている。 ●六大陸の位置関係に関する問題で、市の平均を3.3ポイント下回っている。 ●日本の水産業の特色に関する問題で、市の平均を0.5ポイント下回っている。	・グラフや表などの資料から情報を正しく読み取る力、読み取ったことを文章で表現する力を高められるよう、問題演習の機会を増やしていく。 ・地形図や様々な図法を利用した地図、地球儀などに触れる機会を増やし、生徒たちが地球の形をイメージできるようにしていく。 ・単元を貫く学習課題をもとに、自分の考えを論述する機会を作っていく。
歴史的分野	○領域の正答率は、市の平均を3.4ポイント上回っている。 ○思考・判断・表現を問う問題で、市の平均を平均5.8ポイント上回っている。 ●甲骨文字を問う問題で0.7ポイント、卑弥呼を問う問題で4.4ポイント、国学を問う問題で9.3ポイント、市の平均を下回っている。	・他分野同様、単元を貫く学習課題を設定し、学習のまとめとして、自分の考えを論述する活動を通して、思考力・判断力・表現力を高めていく。 ・単純な暗記作業にならないよう、時代背景や歴史的事象のつながりを丁寧に解説するとともに、基本的な知識・理解の定着を図れるよう、問題演習の機会を増やしていく。
公民的分野	○領域の正答率は、平均を6.2ポイント上回っている。 ○すべての問題で市の平均正答率を上回っている。 特に、憲法改正手続きに関する問題では、市の平均を20ポイント以上、上回っている。 ●公共の福祉について、自分の言葉で表現する問題のみ、正答率が68.9ポイントと低かった。	・他分野同様、単元を貫く学習課題を設定し、学習のまとめとして、自分の考えを論述する活動を通して、思考力・判断力・表現力を高めていく。その際、多様な参考資料を準備し多面的・多角的に考察できるよう工夫していく。 ・憲法改正の流れや法律ができるまでの流れなどは、図の作成を通して丁寧に解説するとともに、問題演習の機会を増やして、さらに知識・理解の定着を図っていく。

宇都宮市立星が丘中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	66.5	63.7	61.5
	図形	70.9	69.6	61.1
	関数	59.6	55.4	43.5
	データの活用	74.9	69.3	64.2
観点別	知識・技能	72.3	69.2	65.3
	思考・判断・表現	57.0	52.9	42.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

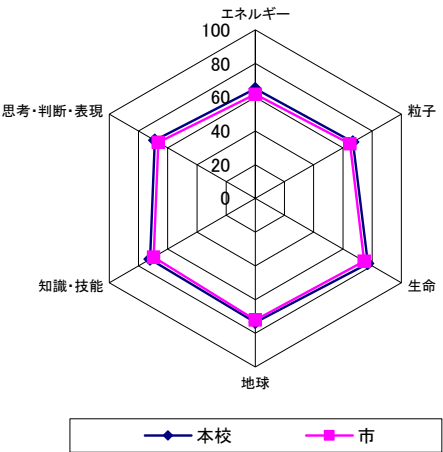
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○領域の平均正答率は、市の平均を2.8ポイント上回っている。 ●平方根の考えを用いる2次方程式の問題では、市の平均を4.5ポイント下回っている。平方根の大小の理解を問われる問題では、市の平均を1.1ポイント下回っている。	・基本的な計算の技能は、毎日の学習の中で定着を図ってきたこともあり、目標とする数値を達成している。今後は、用語の意味の理解にも重点を置き指導していく。 ・2次方程式の計算の技能においては、特に平方根の考えを用いる解き方と、解の公式を用いる解き方について、反復練習をしながら定着させる。
図形	○領域の平均正答率は、市の平均を1.3ポイント上回っている。 ●平面図形の問題では、市の平均を2.9ポイント下回った。	・第1学年で学習する図形の基本的な性質について、語句の整理とともに反復練習を行い定着を図る。 ・作図においては授業内でも何度も扱い、生徒も実際に作図することを繰り返しているため、技能は高まっている。更に、どのような性質を根拠として作図ができているのかということ意識させるよう指導し、十分理解した上での作図ができるようにさせる。
関数	○領域の平均正答率は、市の平均を4.2ポイント上回っている。 ●yがxの2乗に比例する関数の座標に関する問題で、市の平均は上回っているものの、正答率は50.9と低い。	・関数の分野では、表・式・グラフの相互の関係について理解を深める必要がある。 ・関数と他分野の融合した問題について苦手意識が強いので、基礎的な内容だけでなく、発展的な内容も授業で積極的に扱い、演習を重ねていくことで理解を深める。
データの活用	○領域の平均正答率は、市の平均を5.6ポイント上回っている。 ●箱ひげ図から四分位範囲を求める問題では、市平均は上回っているものの、正答率が58.1と低い。	・ヒストグラム、代表値についての定着が不十分な生徒が多い。また、箱ひげ図と四分位範囲の問題に苦手意識がある生徒が多い。まずは、用語の意味を正しく理解させ、その上で実際の問題演習を繰り返し、十分な定着を図るよう努める。

宇都宮市立星が丘中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	65.1	61.8	60.6
	粒子	66.9	64.8	54.0
	生命	77.1	74.5	66.6
	地球	73.6	72.1	63.0
観点別	知識・技能	72.1	69.6	63.4
	思考・判断・表現	68.8	66.5	57.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

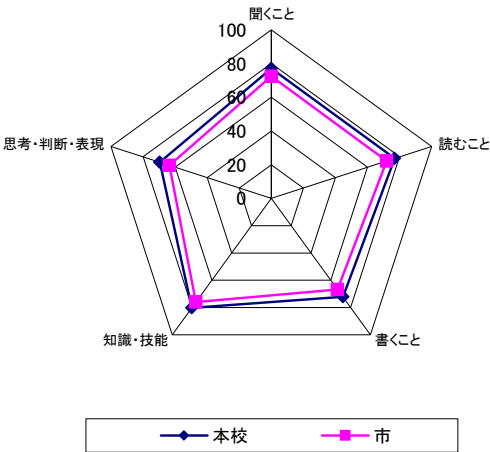
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	○領域の正答率は、市の平均を3.3ポイント上回っている。 ○力学的エネルギーの問題では、活用の部分までよく理解できている。 ●道具を使ったときの結果や実験の条件の変更についての問題など、実験に関する内容の理解には不十分な部分が見られる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・基礎的・基本的な内容は身に付いているので、実験に関する内容を定着させるために、実験の意図や手順を丁寧に確認し、生徒が主体的に実験に参加できるようにしていく必要がある。加えて、グラフの作成や考察などを主体的に行えるよう支援していく。
粒子	○領域の正答率は、市の平均を2.1ポイント上回っている。 ●化学反応式やイオンの数の変化など、物質を粒子モデルとして考える問題では正答率が低くなっている。	・粒子モデルを使った考え方を苦手とする生徒が多いので、モデルを使って考える機会を繰り返すつくり、考え方に慣れさせるようにしていく。 ・粒子分野では、計算やグラフの読み取りなど、基礎を理解して活用する部分が多い。実践力を養えるよう、発展的な内容にも取り入れていく。
生命	○領域の正答率は、市の平均を2.6ポイント上回っている。 ○生物の成長と殖え方の問題では、正答率が9割近くあり、よく理解することができている。 ●血液の循環についての問題は、正答率が6割未満であり、知識不足が見て取れる。	・全体の正答率を見ると、基礎・基本は定着しているが、それをもととして分類・比較して考えることを苦手意識がある。表やフローチャート等で違いを明確にして考える内容を取り入れて指導していく。 ・人体分野は、目で見えないところもあるので、図や表、モデルをもとにするなどして実感をともなった理解ができるようにしていく。
地球	○領域の正答率は、市の平均を1.5ポイント上回っている。 ●地震の発生時刻を求める問題では、正答率が6割程度となっており、計算の仕方の定着不足が見て取れる。	・与えられた資料から必要な情報を読み取り、それを基に考えを導き出すような、活用の部分に課題が残っている。基礎・基本の確実な定着に加え、資料から何が読み取れるのか考えるなど、思考を深める時間を意識してつづっていく。

宇都宮市立星が丘中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	77.1	72.5	70.5
	読むこと	76.9	71.9	66.9
	書くこと	72.2	66.8	59.7
観点別	知識・技能	80.2	76.0	73.9
	思考・判断・表現	69.5	63.6	55.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○領域の正答率は、市の平均を4.6ポイント上回っている。 ●内容理解については、市の平均点との差が小さい。英語学習に関するグラフの問題は、正答率が27ポイントと極端に低くなっている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・ALTとの授業や生徒同士の対話活動などを通して、まとまりのある英語を聞くことに慣れるよう促す。 ・聞くこと・話すことと書くことを関連づけた活動を取り入れ、各技能のスパイラルな向上を図る。
読むこと	○領域の正答率は、市の平均を5.0ポイント上回っている。 ●他の領域も同じ傾向があるが、「基礎」と「活用」の正答率に大きな差異がない。本来であれば「基礎」の部分はもっと正答率が高くなってもよい。	・今年度の改訂で教科書の内容がかなり増えたので、まずは教科書の本文の内容を自分でおおまかに捉える読み方を意識して取り入れるようにする。 ・基礎的な内容については、7割の理解度で満足せず、さらに理解を深めるよう日頃から促すようにする。
書くこと	○領域の正答率は、市の平均を5.4ポイント上回っている。3文以上の英作文は約8割の生徒が書くことができています。 ●語形・語法の知識・理解については、市の平均との差が小さい。	・定期テストでは、まとまりのある5文程度の英作文を毎回課している。書く力をさらに高められるよう今後も継続的に指導していく。 ・単語テスト・単元テストを継続し、基礎的な内容が確実に身に付けられるようにする。

宇都宮市立星が丘中学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・自分の考えを進んで表出する生徒の育成	・普通教室や特別教室にホワイトボードを置き、グループで意見を練り合う場面や発表の場面で活用することで自分の考えを表出しやすくする。 ・タブレット端末を活用した意見交換などを行い、自分の考えを表出することのできる活動を取り入れる。	「自分の考えを根拠をあげながら話すことができる」に対する肯定的割合は、1年生が77.1ポイント、2年生が75.6ポイント、3年生77.9ポイントであり、すべての学年で宇都宮市の平均を上回っている。
・ねらいを共有し、目的をもって学ぶ生徒の育成	・毎時間のねらいの提示やこの授業で育てたい力を意識して指導することにより、生徒に授業の目標や見通しを意識させる。	「学習に対して自分から進んで取り組んでいる」に対する肯定的割合が1年生が81.7ポイント、2年生が71.9ポイント、3年生81.3ポイントであり、すべての学年で宇都宮市の平均を上回っている。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

国・県・市のどの調査においても各教科・領域の正答率は良好である。しかし、家庭学習において学習時間が不足していたり、計画を立てて学習することができていない生徒も見られたりするので、習ったことをその日のうちに繰り返し学習する指導を充実させることで、学力不振の生徒も含めてさらなる学力向上を目指す。また、授業においては、表現力の向上を目指して取り組んできたため、「自分の考えを根拠をあげながら話すことができる」について宇都宮市を上回る結果が見られた。さらに、今年度は1人1台の端末の導入により、調べたことや発表することをGoogleスライドなどを活用してまとめる活動を取り入れ、自分の考えをまとめる力が向上している。次年度はさらに『主体的・対話的な学び』の場面の指導方法を工夫し、自分の考えを広げ深めさせる授業実践を行っていく。また、職員研修や教科部会などの機会を通して、教師の授業力向上や生徒の1人1台端末の積極的な活用を図る。